

## 第7回 オリンピック・パラリンピック教育に関する有識者会議 資料

# 「東京都オリンピック・パラリンピック教育」 実施方針の概要

平成28年4月6日(水)

東京都教育庁

次長 松山 英幸

# オリンピック・パラリンピック教育

平成28年度から全ての公立学校で実施！！

## ＜オリンピックの目標＞

- 人間の尊厳の保持に重きを置く平和な社会を奨励
- スポーツを人類の調和のとれた発展に役立てる

## ＜パラリンピックの目標＞

- スポーツを通じ、障害者も健常者もともに生きる共生社会を目指す

「オリンピックの目標」や「パラリンピックの目標」は  
教育基本法や学習指導要領の理念と合致



日常の教育活動の中に取り入れ実施

# 育成すべき人間像

- ① 自己を肯定し、自らの目標を持って、自らのベストを目指す意欲と態度を備えた人間
- ② スポーツに親しみ、知・徳・体の調和のとれた人間
- ③ 日本人としての自覚と誇りを持ち、自ら学び行動できる国際感覚を備えた人間
- ④ 多様性を尊重し、共生社会の実現や国際社会の平和と発展に貢献できる人間

# 基本的視点

- ① 全ての子供が大会に関わる  
全ての子供が発達段階や興味・関心に応じて関わる
- ② 体験や活動を通じて学ぶことを重視する
- ③ 計画的・継続的に教育を展開する

# オリンピック・パラリンピック教育の基本的枠組

○4つテーマと4つのアクションを組み合わせた多様な取組を展開

## 4つのテーマ

オリンピック・  
パラリンピックの  
精神

スポーツ  
(オリンピック競技・  
パラリンピック競技、  
障害者スポーツ)

文化  
(日本文化、  
国際理解・交流)

環境



## 4つのアクション

学ぶ  
(知る)

観る

する  
(体験・交流)

支える

# 重点的に育成する5つの資質

- ボランティアマインド
- 障害者理解
- スポーツ志向
- 日本人としての自覚と誇り
- 豊かな国際感覚

## 重点的に育成する5つの資質

### <ボランティアマインド>

- ・社会貢献への意欲
- ・他者を思いやる心
- ・自尊感情の向上

など

### <障害者理解>

- ・多様性の尊重
- ・共に助け合い、支え合っ  
て生きる力の育成
- ・心のバリアフリーの浸透

など

### <スポーツ志向>

- ・スポーツへの親しみ
- ・フェアプレー・チームワー  
クの精神
- ・健康づくりへの意欲

など

### <日本人としての自覚と誇り>

- ・日本の伝統や最新の文化への理解
- ・規範意識、公共の精神等の修養
- ・日本の伝統・文化を世界に発信する  
力

など

### <豊かな国際感覚>

- ・世界の多様性への理解
- ・世界で通用する英語力
- ・各国の人々と積極的にコミュニケ  
ーションを図ろうとする態度

など

# 4つのプロジェクトの推進

- 東京ユースボランティア
- スマイルプロジェクト
- 夢・未来プロジェクト
- 世界ともだちプロジェクト  
(Global Friendship Project)

# 東京ユースボランティア

- 各学校が取り組んできた社会奉仕の精神や思いやりの心を養う取組を充実・拡大
- ボランティアマインドを育み、自尊感情を高めていくとともに、障害者理解を促進

## 取組の例

- ・地域清掃、地域行事、地域防災活動、スポーツ大会、障害者・高齢者施設等でのボランティア
- ・被災地でのボランティア

など

# スマイルプロジェクト

- これまで各学校で行ってきた思いやりの心を育てる取組や、互いを認め合う心を育む教育を充実・拡大
- 子供たちの障害者への理解を促進するとともに、ボランティアアマインドやスポーツ志向の醸成に寄与

## 取組の例

- ・障害者スポーツの体験
- ・特別支援学校や特別支援学級の児童・生徒と小・中・高校生との交流
- ・障害者施設等の訪問、障害者アートの鑑賞

など

# 夢・未来プロジェクト

- オリンピアンやパラリンピアン等のアスリート等との、直接交流により、児童・生徒がオリンピック・パラリンピックのすばらしさを実感

## 取組の例

- ・「**YOKOSOプログラム**」...我が国のオリンピック・パラリンピアン等から、特別講演、競技紹介、実技指導を実施
- ・「**Welcomeプログラム**」...在日外国人アスリート等による国際理解の促進、スポーツを通じた交流
- ・「**自分にチャレンジプログラム**」...パラリンピアン等による、特別講演や障害者スポーツの体験教室等を実施

# 世界ともだちプロジェクト

- これまで各学校で行ってきた国際理解教育や国際交流活動を充実・拡大するもの
- まずは、調べ学習等で多様な国々を幅広く学習し、可能な限り、実際の交流へと深化させていく活動を推進
- こうした活動を通じ、豊かな国際感覚を醸成するとともに、日本人としての自覚と誇りの涵養

## 取組の例

- ・留学生や大使館等との交流
- ・海外の学校との手紙やメール等のやり取りなどの直接交流
- ・児童・生徒による相互理解

など

# 各学校における学習の進め方

- 当該校の特色及び校長の経営方針等に基づき、年間指導計画を作成
- 年間35時間程度を目安
- 学校全体で組織的・計画的に実践
- 特定の教科等に偏ることなく全ての教育活動で展開
- 学びを深めるため、体験や活動を重視
- 発達段階に応じて系統的に実施

# 3つのレガシー

- ① この教育での体験や活動を通して、子供たち一人一人の心と体に、人生の糧となる掛け替えのないレガシーを残す
- ② この教育で蓄積されるノウハウや人的ネットワーク等を活用し、大会後も長く続く教育活動として発展  
⇒多様性への理解、国際交流、伝統・文化理解、ボランティア等の取組
- ③ 家庭や地域へ波及させ、子供たちだけでなく、家庭や地域を巻き込んだ取組により、大人たちのボランティアマインドを高めるとともに、障害者理解を深め、共生・共助社会を形成

# 都教育委員会が実施する区市町村・学校への支援策

- 学習読本や映像教材の作成・配布
- 教員向けの指導書、実践事例集などの作成・配布
- 教員研修を更に充実
- 各取組をサポートするウェブサイトを構築
- 学校を支援するためのコーディネート機能を構築

ご静聴

ありがとうございました